

## 丹波市立看護専門学校関係者評価委員会

開催日時 令和5年5月18日（木） 13時30分～14時15分

場 所 丹波市立看護専門学校

出席者 （委員長）実習施設職員、（副委員長）本校の卒業生、本校在学生の保護者、地域住民、校長

事務局 健康・子育て担当部長、副校長、事務長、教務主任

### 主な意見等

#### 【令和4年度自己点検・自己評価総評について】

- ・志願者数増加に向けて取組んだ効果があったと思うので、維持できるように。
- ・ネットはよく見られているので、ホームページのさらなる充実を。
- ・3年間の学生生活を楽しく過ごせるよう、市内のおしゃれなカフェやお出かけスポットなどをもっと紹介してはどうか。
- ・異学年交流にも力を入れている。今後も継続してほしい。
- ・コロナ禍で実習時の制限が多いが、少しずつ対象者との距離が近づいており、それに伴って実習レポートの内容にも良い変化がみられる。
- ・トライやるウィークの参加希望者が増えていると聞く。看護に興味・関心のある子どもたちを一人でも多く受入れてほしい。

※以下に、自己点検・自己評価の総評を掲載

## 自己点検・自己評価 総評

### 【 I 教育理念・教育目的 】【 II 教育目標 】

現代社会は、価値観の多様化、高学歴化、情報社会となっていることから、高度な医療技術や安全・安心な質の高い医療サービスの提供などが求められている。また、当校は市を設置主体として、「市内の医療機関や介護施設等への看護師確保対策」を目的に学校が設置されていることから、丹波市内や近隣の市町へ就職し、地域に貢献できる看護師の育成が求められている。

これらを踏まえ、教育理念では、丹波市の理念である『丹(まごころ)の里』を基盤として、①丹波市への愛着と誇りをもち、人としての思いやりのある看護師を育成していくこと ②丹波市内の病院を始めとして近隣の施設や地域で活躍できる看護師を育成すること ③的確な状況判断のもとエビデンスに基づいたアセスメントをし、対象に応じた看護が実践できる看護師を育成していくこと を掲げている。学校のポリシーは、①求める入学生像 ②カリキュラム編成の方針 ③卒業時の姿 ④教育の検証・評価の指針 として示し、到達すべき方向が理解できるようにしている。

教育理念、教育目的、教育目標は、教員・学生への指針となっており、令和4年度の卒業生の91%が兵庫県内に就職し、そのうち39%が丹波市内に就職している。丹波医療センターや大山記念病院等の実習病院への就職は53%であった。今年度も、丹波医療センターに就職できた学生数が維持できており、主な実習施設としての受け入れが拡大が丹波市内への就職率上昇に繋がっている。

また、地域の特徴を知る授業として『地域魅力発見』『暮らしを支える看護Ⅱ』を実施し、フィールドワークを通し学生が主体的に丹波の魅力や住民のニーズを調査した。アンケート結果から、「丹波市在住であっても知らないことが多く、丹波の魅力を発見できたことがよかった」「生活のしやすさの価値観の違いがわかった」などの意見があった。今後も、丹波市の魅力や特徴を実感し、市内に就職してくれる卒業生を増やしていく必要がある。

### 【 III 教育課程経営 】

教育課程は、基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野の4つから編成し、国家試験の受験条件である『97 単位・3000 時間以上』の学習時間を確保し、『105 単位・3030 時間』で構成している。

カリキュラムデザインは、学生が学習内容を理解しやすいように、漸進的カリキュラムデザインを選択し、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなど、基礎分野、専門基礎分野で学習したことを基盤として専門分野に繋がられるように考慮した配列としている。

はじめて医療に関する学習を進める上で、学習内容が理解しやすいように配置できていると考えるが、講師の都合で科目内容が思うように進まない場合もあり、専門分野の内容が先行することもある。逆志向での学習ではあるが、振り返りとなり問題はない。

### 【 IV 教授・学習・評価過程 】

授業科目に関しては、科目ごとにシラバスを作成し、科目目標、事前課題、講義内容、学習方法、使用テキスト、成績評価の方法を記載し、学生に提示している。学習が効果的に進むように、関連のある内容をまとまりとして配置しているが、講師の都合、科目の進度によって開講

時期が離れてしまうことがある。できる範囲で科目のくくりを近い時期に開講できるように科目配置をする必要がある。

専門分野の授業科目は、領域別看護学の担当者が中心的に担い、年度末に担当する看護学の内容を評価することで、看護学の領域や関連科目の領域での科目の重複や不足を確認できている。また、各自が責任をもって1つの領域看護学を担当するため、タイムリーな変更ができています。

## 【 V 経営・管理過程 】

設置主体が丹波市であることから、県からの補助金、市の税金・地方交付税、学生の入金・授業料などを財源として運営している。

2019年9月に校舎を新築移転したことで、学生がリラックスできるスペースや自己学習ができる場所が確保でき、教室、実習室のスペースも広くとることができ、学習環境は整っている。また、遠方から入学している学生に対しては、ワンルームマンション形式の学生寮を整備し、遠方からの学生を支援している。

実習施設は、同敷地内にある県立病院を中心に、公共交通機関で通学できる場所、通学時間が1時間以内の場所に確保し、学生の金銭的負担、時間的負担に配慮している。今後でもできる範囲で近隣での実習施設の確保をすすめていきたい。

## 【 VI 入学 】

学校が求める学生像のアドミッションポリシーを作成し、それに基づき、11月に地域枠入学試験、1月に一般入学試験を実施していたが、全国的に入試時期が早まっている傾向から本年度から地域枠入学試験を10月へ、一般入学試験を12月に変更とする。入学定員40名に対して、地域枠入試は15名程度、一般入試は25名の入学を許可している。試験実施までに入学試験委員会を開催し、前年度の評価を行い問題点や改善点を明らかにして、試験実施に関する内容を検討、決定している。

数年受験者数の減少が顕著であったが、昨年度は例年の25%増が認められた。少子化による18歳人口の減少に加え、大学進学希望者が増加していることは継続した課題だが、受験者の確保対策を工夫（地域枠の範囲を広げ、社会人の取り込みを行うとともに、看護職の道を考える対象者を増やして、市内の学校への進学者を確保するために、中学生へのオープンキャンパスやトライやるウィークへの参加）をしたことで成果が得られた。今年度は受験者数増加が維持できるよう更に対策・企画していく。

## 【 VII 卒業・就職・進学 】

教育理念・教育目的・教育目標に従ってカリキュラムを運営し、学則に基づいて単位が取得できた学生に対して卒業を許可し、専門士の称号を授与している。退学・休学者はほぼないが留年者が数名ある。原因は成績不振だが自己学習力の不足であり主体性の課題がある。

学生が能動的に主体的に行動できるように、グループディスカッションができる演習室・研究室を複数設置し、アクティブラーニングができる環境を整えている。他者との意見交換をすることで、自ら考え、判断し、行動できるように、アクティブシンキングの思考の育成に力を入れ、現代の若者の弱みを強みに変換できるようにする必要がある。

令和4年度の国家試験合格発表の結果は、全国の合格率が90.8%、新卒者の合格率が

95.5%で、当校は 97%であった。国家試験対策は基礎的な知識の定着に有効であると判断できるため、継続して実施する必要がある。

今年度の実習も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、臨地での実習時間が減少し、臨地実習 38%、学内実習 62%であった。受け持ち患者を通して机上学習と現場での体験を結びつける機会が少なく、状況を判断する能力が弱いことが考えられる。また、異世代の方とコミュニケーションをとる機会が少なく、コミュニケーション能力が弱いことも考えられる。学内実習では、シミュレーション機器を用いて状況判断や観察をする学習を行っているが、リアリティには欠けるところがある。今年度は、コミュニケーション力強化のため、合同学習を実施したり、学校ができる範囲のことを行っているが異学年交流の活動を増やしていき、今後の学生の成長に期待したい。